

長谷川 望 牧師

- * 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を見ることはありません。」 (8 : 51) というイエスのことばを聞いてユダヤ人たちは、あのアブラハムも預言者も死んだではないか、あなたは悪霊につかわれている、と非難する。
- * アブラハムは、ユダヤ人たちにとって神様の次に大切な人である。彼は行いではなく神を信じることで義とみなされたとパウロは言う。彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。(ローマ 4 : 18) また、マタイの福音書の最初はアブラハムで始まっている (日本語の翻訳)。アブラハムの子孫からイサク、ヤコブが生まれ、その子孫からダビデが生まれ、さらにイエス・キリストへとつながっていく。アブラハムは私たちクリスチャンの父でもあるといえる。
- * あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。」そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。」イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」 (8 : 56 ~ 58) 主イエスは「わたしはある」という者であり、造られたものではなく、この世の初めから存在するものである。それ故当然イエスはアブラハムを知っておられる。
- * ヨハネの福音書は書き出しが「初めにことばがあった。——ことばは神であった」とあるように、イエスが「神の子キリストであること」すなわち「神であること」を強調している。わたしの父は神であり、父とわたしは一つである、とイエスは何回もユダヤ人たちに言っても、彼らは、律法をおろそかにし、自分を神とするようなものがキリストであるはずがない、という先入観にとらわれ、全く聞く耳を持たなかった。「すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。」 (8 : 59)

私たちがかつては、イエスに石を投げつけた者であった。しかし、イエスの真実を知り、信じて救われた。イエスは神である。